

2011年から2019年に消化管病変を契機にびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と診断された患者さんへ

診療情報を用いる後方視的研究へのご協力をお願い

大分県厚生連鶴見病院血液内科では、上記に該当される患者さんの診療情報等を利用して、後方視的検討を行います。研究の内容については当院の臨床研究倫理審査委員会にて許可されております。本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合、または研究について詳細にお知りになりたい場合は担当医にお声かけください。

【研究課題名】

消化管原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対するリツキシマブ併用化学療法の後方視的検討

【研究責任者】

大分県厚生連鶴見病院血液内科 佐分利益穂、中山俊之

【研究の対象となる方】

2011年から2019年に消化管病変を契機にびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と診断され、当科でリツキシマブ併用化学療法を施行された患者さん

【研究の概要】

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫は、成人の非ホジキンリンパ腫の 30-40%を占める最も頻度が高い病型です。病理組織学的には大型 B 細胞がびまん性増殖を示すリンパ腫と定義されます。40%がリンパ節以外の節外臓器から発症するとされており、その内、胃や腸管などの消化管を原発とする頻度が高く、心窩部痛や出血、中には消化管穿孔を診断契機として、外科的切除の後に診断される場合もあります。治療は CHOP 療法による多剤併用化学療法が主体でしたが、CD20 モノクローナル抗体であるリツキシマブが 2003 年に国内で保険承認となり、リツキシマブ併用 CHOP (R-CHOP) 療法が導入されてからその成績は大きく向上し、初発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する標準治療となっています。消化管原発例においても R-CHOP 療法を主体とした化学療法が標準治療ですが、リツキシマブ時代における治療成績の報告は多くないため、その検討は今後の課題を明らかにして治療成績の向上につながると考えられます。

【研究の意義】

消化管原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫のリツキシマブ併用化学療法の治療成績を明らかにする

【研究（調査）の方法・期間】

方法は、対象患者さんの臨床情報を医療記録より収集し、治療経過や予後の検討を行います。

研究期間は、大分県厚生連鶴見病院における臨床研究倫理審査委員会の承認日から令和 2 年 12 月 31 日までです。

【個人情報に関する配慮】

連結可能匿名化を行い、対応表は鍵のかかる庫で保管します。得られた結果は、学会や医学雑誌に発表されることとなりますが、研究の結果を公表する際は個人が特定できないようプライバシーに配慮致します。

【患者の利益と不利益】

この研究では治療介入を行いません。実地医療の結果を調べる後ろ向き観察研究であり、本研究に参加することによる患者さんの利益、不利益はともにありません。

研究の趣旨を御理解いただき、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。もし、本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合は担当医もしくは以下にご相談ください。

【お問い合わせ先】

〒874-8585 大分県別府市大字鶴見 4333 番地
大分県厚生連 鶴見病院 血液内科 佐分利益穂、中山俊之
電話番号（代表）：0977-23-7111